

福島第一原子力発電所の状況

平成 25 年 10 月 2 日
東京電力株式会社

< 1. 原子炉および原子炉格納容器の状況 > (10/2 11:00 時点)

号機	注水状況		原子炉圧力容器 下部温度	原子炉格納容器 圧力*1	原子炉格納容器 水素濃度	
1 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 1.9m ³ /h	31.4 °C	105.5 kPa abs	A系：	0.03 vol%
		給水系：約 2.5 m ³ /h			B系：	—*2 vol%
2 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m ³ /h	42.0 °C	8.01 kPa g	A系：	0.04 vol%
		給水系：約 1.8 m ³ /h			B系：	0.04 vol%
3 号機	淡水 注入中	炉心スプレイ系：約 3.4 m ³ /h	41.7 °C	0.23 kPa g	A系：	0.08 vol%
		給水系：約 1.8m ³ /h			B系：	0.10 vol%

*1:絶対圧(kPa abs) = ゲージ圧(kPa g) + 大気圧(標準大気圧 101.3 kPa)

*2:計器点検に伴いデータ欠測

・H25/10/2 0:00 2号機の原子炉格納容器に新たに温度計を設置し、8月14日よりデータを採取しているが、既設温度計と同様に外気温度や注水温度の変化に応じた挙動を示していること、指示の安定性等について確認出来たことから、特定原子力施設に係わる実施計画Ⅲ章第1編第3節第18条に定める原子炉の冷却状態を監視する計器として運用を開始。(TE-16-007, TE-16-008)

【3号機原子炉建屋5階中央部近傍(機器貯蔵プール側)での湯気発生状況】

・H25/10/2 7:50 頃 湯気らしきものをカメラにて確認。(気象データ[10/1 7:00 時点]):気温 21.0℃、湿度 93.6%)
※プラント状況、モニタリングポストの指示値等異常なし。

< 2. 使用済燃料プールの状況 > (10/2 11:00 時点)

号機	冷却方法	冷却状況	使用済燃料プール水温度
1号機	循環冷却システム	運転中	26.0 °C
2号機	循環冷却システム	停止中	28.3 °C
3号機	循環冷却システム	運転中	24.8 °C
4号機	循環冷却システム	運転中	30 °C

※各号機使用済燃料プールおよび原子炉ウェルヘヒドラジンの注入を適宜実施。

・9/30 6:27～ 2号機使用済燃料プール代替冷却系について、同系統の瞬時電圧低下対策工事に伴い停止。冷却停止時のプール水温は 22.3℃。10/4 まで停止(約 107 時間) 予定。なお、冷却系停止時のプール水温度上昇率評価値は 0.172℃/h で、停止中のプール水温上昇は約 19℃と評価されることから、運転上の制限値(65℃)に対して余裕があり、使用済燃料プール水温管理上の問題はない。

< 3. タービン建屋地下等のたまり水の移送状況 >

号機	排出元 →	移送先	移送状況
2号機	2号機タービン建屋	→ 3号機タービン建屋	9/24 9:56 ～ 移送実施中
3号機	3号機タービン建屋	→ 集中廃棄物処理施設(雑固体廃棄物減容処理建屋 [高温焼却炉建屋])	9/24 10:22 ～ 移送実施中

7/16 13:00～ 5, 6号機屋外の仮設タンク(9基)には、震災時に5, 6号機各建屋に流入した海水および地下水(メガフロート水)を貯蔵しているが、本仮設タンク水を5, 6号機タービン建屋滞留水と同様に淡水化处理(RO)を行うため、6号機北側にあるFエリアタンクへ移送を開始。

<4. 水処理設備および貯蔵設備の状況> (10/2 7:00 時点)

設備	セシウム 吸着装置	第二セシウム 吸着装置 (サリー)	除染装置	淡水化装置 (逆浸透膜)	淡水化装置 (蒸発濃縮)	多核種除去設備 (ALPS)
運転 状況	停止中	運転中*	停止中	水バランスを みて断続運転	水バランスを みて断続運転	C系ホット 試験実施中

*フィルタの洗浄を適宜実施。

・H23/6/8～ 汚染水・処理水を貯蔵・保管するための大型タンクを順次輸送、据付。

・H25/8/8 12:55～ 6/15 に多核種除去設備A系で発生したバッチ処理タンクからの水漏れについて、現在A系で実施している腐食防止対策をB系でも実施するため、同設備B系を停止。

再発防止対策を実施した上で、C系は9/27にホット試験を開始。A系は10月中旬、B系は11月以降を目処にホット試験を再開予定。

<5. その他>

【H4エアータンクからの水の漏えい関連】

<トピックス>

・9/17～18 漏えいの確認されたH4エリア I グループ No.5タンクのタンク底板部および側板1段目を除き解体。

9/19～ タンク内部の調査を実施中。

・10/1 11:50 頃 H5エアータンク東側に設置しているノッチタンク上部マンホールから水が溢れていることを協力企業作業員が発見。溢れた水は、H6エアータンクの堰内の水を移送していたもので、その後、12:10頃に移送ポンプを停止し、溢水は停止。現在、漏えい状況および原因等を調査中。

その後、ノッチタンク内の水およびノッチタンク廻り堰内の溜まり水の分析を実施。結果は以下の通り

【ノッチタンク内の水】

全ベータ=390[Bq/L](簡易測定による)、セシウム 134=8.0[Bq/L]、セシウム 137=16[Bq/L]

【ノッチタンク廻り堰内の溜まり水】

全ベータ=380[Bq/L](簡易測定による)、セシウム 134=6.9[Bq/L]、セシウム 137=16[Bq/L]

・1号機建屋海側観測井1T-5について、新たに分析を実施(10/1 採取)。Cs-134:検出限界値未満(検出限界値:0.47[Bq/L]、Cs-137:検出限界値未満(検出限界値:0.62[Bq/L]、全ベータ:3,200[Bq/L])

<最新のパトロール実績(10/1)>

・高線量当量率箇所($\beta + \gamma$ 線(70 μ m線量当量率))は確認されず。

・目視点検によりタンク全数に漏えい等がないこと(堰内溜まり水箇所の漏えいを除く)を確認。

<H4エリア周辺のサンプリング実績>

・観測孔 E-5(9/30 採取)について、トリチウムの値が上昇傾向を示しており、2,000Bq/Lとなっている。

・他については有意な変動はない。

<排水路・南放水口のサンプリング実績>

・有意な変動なし。

【タービン建屋東側の地下水調査/対策工事の実施状況】

<トピックス>

・1・2号機取水口間のウェルポイントおよび集水ピット(南)地下水から立坑Cおよび2号機タービン建屋への移送量は
10/2 0:00 時点で約 2,552m³ *集水ピット(南)およびウェルポイントの総量

<地下水観測孔サンプリング実績>

・有意な変動なし。

【地下貯水槽からの漏えいに関する情報および作業実績】

・H25/7/1～ 拡散防止対策およびサンプリングは継続実施中。(有意な変動なし)

・H25/9/17～ 地下貯水槽 No.3 の浮き上がり対策として碎石盛土を実施中。なお、碎石盛土にあわせて、南西側ドレン孔からの地下水の排水を適宜実施。

以 上